

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2970400566		
法人名	医療法人 健和会		
事業所名	グループホーム ふれあい天理		
所在地	奈良県 天理市 中之庄町 531		
自己評価作成日	平成21年12月28日	評価結果市町村受理日	平成22年5月24日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kohyo-nara.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	奈良県国民健康保険団体連合会		
所在地	奈良県橿原市大久保町302-1 奈良県市町村会館内		
訪問調査日	平成22年3月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ふれあいの里の一角にあるグループホームは2階建てで日当たりが悪く高齢者が生活するには、立地条件が良いとは言えません。そのような中、1日1回は太陽に当たるために1時間弱かけて散歩に出かけています。緊急時に備えて2階への昇降はエレベーターを使わず階段を利用しています。館内の至る所に手すりが設置されていることも加わり、入居者は、自分の足で元気よく歩いてくださっています。入居の日、車椅子で来館された人も杖を使いながら散歩の先頭を行こうと懸命です。トイレの排泄もトイレを汚しながらもひとりであるのを見守り、終わってからの補いと掃除をすることで自力で排泄行為が出来る人が増えました。時間と手間がかかりますが、自然に自立支援をしていることに気がきました。入居者の皆様はとて明るく生き生きされています。生涯現役！私たち職員を陰になり日向になり見守り育ててくださっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人のグループホームである利点を活かし、病院・施設との連携をとりながら、ホーム独自のサービスの工夫に努め、入居者の人生と向き合い、個別支援を重視した取り組みをされています。また、家族にも認知症が理解出来るよう支援されており、在宅では難しかった家族を交えた旅行や、個々に応じた看取りなどを実施し、家族からも安心と信頼を得られています。個々の入居者の力を活かしつつ、人生の先輩である入居者に職員が育ててもらっているという姿勢で支援に臨まれています。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ふれあいの里の理念に基づいて、グループホームの理念を創り、それに基づいた関わりが出来るよう努めている	地域密着型サービスの意義をふまえた法人の理念に基づき、ホーム独自の理念を掲げ、職員全員で確認し、具体的なケアについての統一を図られています。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ふれあいの里そのものが、地域に根付いた運営を行っているので、グループホームもそのグループの一事業所という認識で地域の方は関わってくださっている。	地域の方に畑の管理を手伝ってもらおう等、日常的に交流されています。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居希望の見学時や、入居家族を通して相談を受ける機会があり、相談内容に応じたアドバイス等を行っている		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では日々の生活・活動を報告し参加者にグループホームの生活を知って頂き、意見から改善点が見いだせている。区長さんの参加を得ているので、世間一般の“純粋な疑問・意見”を聞かせて頂き、地域に持って帰ってくださっている。	家族・地域の代表者・市の担当者等の参加の下、定期的に会議を開催し、ホームの現状報告や課題について積極的に意見交換が行われ、出された意見は、サービスの向上に活かされています。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者とは、電話・メール等で行政面からのアドバイスをいただいている。運営推進会議で顔を合わせる機会を得ているので話しやすい関係が出来ている。	運営推進会議のほか、日頃から電話・メール等で市の担当者との情報交換や連絡を行う等、連携されています。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行うことにより認知症の方への対応がより困難になることを職員は認識している。玄関・居室等の鍵は、ごく一般的な物を使用しているため入居者自身が施錠することはあるが、職員が拘束目的で施錠することは今までにはなかった。	職員全員が、研修等の機会を通じて身体拘束の内容とその弊害を認識し、玄関を施錠することなく自由な暮らしを支援する等、身体拘束をしないケアに取り組まれています。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は奈良東病院で身体拘束廃止に取り組んでいた。グループホームでも拘束のないケアを目指し、見えない拘束・言葉の暴力にも目を向けた職員指導を行っている。家族等との関わりの中でも、明らかな虐待は見られない。外出・外泊よりの帰館時家族を労う言葉掛けを行うよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の際権利擁護に関する制度の説明を受けているが、今までに必要とする入居者がなく支援の経験がない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	主に家族への説明になるが、十分な時間を以て行っているが、1回だけの説明では不十分なこともあるかと考え日を改めて確認を行うようにしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の不満・苦情は不機嫌・介護拒否・問題行動として現れてくるので、日々の個々の表情を見ながら問題出現の原因究明に努めている。家族面会時こまめに声を掛けるようにし、会話の中からも要望が拾い上げられるようにと考えている。	家族の訪問時に管理者が直接話をする機会を作り、話しやすい雰囲気の中で意見を聞くように努められています。また、運営推進会議への家族の参加もあり、出された意見・要望等は運営に反映されています。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議等で意見をとりまとめ必要に応じて管理者から運営者に提案し検討される。又管理者は職員から個々に気軽に話せる雰囲気を持って意見を聞くようにしている。上からの指示よりも自分たちで考えて運営するシステムが出来ている。	職員会議や管理者が個人的に職員の意見を聞く機会を設け、職員から出された気づきやアイデアを採り入れる等、運営に反映されています。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ふれあいの里全体で人事考課制度を用いた個別評価を行っている。今年は、介護職員処遇改善交付金の支給も受けた。運営努力がポイント報奨金に、チームワークと努力が報酬に繋がり職員の満足アップになっている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ふれあいの里全体でのステップアップ研修システムがありそれに参加できるよう勤務調整を行っている。また、外部研修にも参加する機会を提供している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内に他に4カ所のグループホーム(うち3カ所は同法人)があり、この間では常に交流を持ち互いに刺激しあっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人から困っていることや不安なこと、求めていること等を聞き出すことは、病気の性質上かなり困難であるが、「この人なら安心かな?」と思ってもらえるような信頼関係が築けるような初回面接になるよう努力している。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	認知症になった人を抱えた家族は、誰かの聴いてほしいことをたくさん持っていると感じている。初回面接時は、ひたすら家族の話を聴く！姿勢に徹している		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームに入居することが本人にとって一番の方法であるかの検討をまず行う。必要とされている支援と提供できる支援を考慮し最適と考えられるサービス提供が出来る事業所をふれあいの里内で紹介することもある		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	長く生きてこられた経験や知識の豊富さから教わるが多々ある。また、労うことや思いやることを実践し教えられる。スタッフが入居者に支えられ育てられていると実感している		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時近況を伝え家族とのコミュニケーションを密にし情報の共有を図り、相互から支援できるように努めている		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出・外泊に制限はなく、家族が望まれる関係継続は行われている。グループホームの行事にも馴染みの場所を利用した計画を立てている	本人のこれまでの人間関係を大切するため、訪問者の受け入れや外出・外泊が自由に行えるよう支援されています。また、ホームで外食する際は、入居者の馴染みの店を利用する等の取り組みもされています。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニット毎の馴染みの関係ができています。時折衝突も見られるが、職員は出来るだけ中立の立場を守りながら関わるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今までの契約終了の理由は、入院・転居・死亡であるが、入院時は、面会に行ったり、病状安定後の落ち着き先の相談を受けたりと言った関わりをしてきた。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族の希望も含めて把握するように努め、ケアプランに反映させている。本人から直接思いや意向を聞き取ることは困難で、日常の会話の中からもみ取れる話題の提供等努力している	家族からの情報や、日常生活の中から、本人の希望や意向の把握に努められています。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族から聴取しているが、一度に多くの情報を得ることは困難なため、面会の度に複数の家族から情報を得るようにしている		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居時に家族から聴取し、入居直後の約一週間を観察期間として出来ること・出来ないこと・分かること・分からないことを職員が共有するようにしている		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者個人が、困っていること・求めていることを主体としたケアプランが立案できるよう指導し、作成している	日頃のかかわりの中で家族の要望や本人の状況を把握し、関係者で話し合い、現状に即した介護計画を作成されています。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った記録と特記事項を日勤帯と夜勤帯に個人の記録用紙に記載している。また、ケアプランチェックシートでケアプランの評価も行っている		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームの支援は、一般家庭の日常生活内容と同じで目の前に起こる様々なことに対して、家族に合わせて対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの導入は行っているが、他の地域資源との協働は行っていない		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	奈良東病院から入居した人は、主治医がそのままかかりつけ医になるが、在宅から入居した人は、前医から情報提供を受けて奈良東病院に変更されることが多く、認知症の専門医により適切なケアを受けている	入居前の受診の経過、現在の受診の希望を把握し、これまでのかかりつけ医やホームの協力医等、本人や家族の希望に応じた受診支援をされています。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師で日常的に健康管理を行っている		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	奈良東病院への入院は、理解と協力を得て極短期間にとどめている。他の病院へは、奈良東病院では出来ない治療目的での入院になるため、その治療が終了した時点で転院出来るようケースワーカーから依頼する。奈良東病院のカフェルスには参加し状況把握している。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	必要時終末期カフェルスを開き関係する全ての人たちが方針を共有できるように努めている。普段のカフェルス時終末期の迎え方についての家族の意向は聴いているが、その時が近づきつつある時に繰り返し意向を確認しながら、グループホームで出来ること・出来ないことを考え方向付けを行う	終末期の支援については、状況の変化に応じて繰り返し医師や家族と相談しながら、関係者全員で方針を確認、共有し、ホームでできる限りの対応をされています。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	「頭では分かっているつもりでもいざとなると手が出なかった」と職員は言うが、館長不在時でも特に問題なく処理できている。急変時や事故発生時の対応は、個別に理解の度合いを確認し追加指導を行っている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ふれあいの里全体での協力体制が出来ている。建物が二階建てでエレベーターが設置されているが、緊急時の避難を考慮し、普段の生活には階段を使っている。	敷地内にある併設施設との災害時の連携体制が整備されています。また、非常食の備蓄もあり、近々スプリンクラーも設置される予定です。	法人での災害対策はとられていますがホーム独自の対策はなされていないので、入居者の状況を踏まえたホーム独自の災害対策を検討されるとともに、職員だけの誘導の限界を確認し、地域住民との協力体制を築いておかれることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	“入居者様はお客様！”の考え方でへの接遇については、ふれあいの里全体で取り組みがある。プライバシーを守り一人ひとりの人格を尊重した関わりには限りなく日々努力しています	入居者のそれまでの人生に敬意を払い、言葉遣いに気をつけてプライバシーを損ねないよう対応されています。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	説得より納得！の関わりが出来るよう努力している。思いや希望が表せる人には、時間がかかっても本人が求めてくるまで待つことや、気付くまで見守るなど自主性を重んじた関わりが出来るよう努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課は食事時間を中心にそれ以外はほとんど決まっていない。お茶を飲みながらの話しの中から、その日のアクティビティを見つける努力をしている。アクティビティへの参加も参加したくなるような声掛けはするが、強制はしない		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回来館する散髪屋さんに髪を整えてもらっている。受けるかどうかは希望を聴き、ヘアスタイルは散髪屋さんと本人が相談して決めている。服選びは、季節はずれの服装をしている時は調整する。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、献立・食材調達・調理全てをグループホームで行っている。入居者の得意分野を活かした活動が出来るよう配慮しながら職員と一緒にやっている。下ごしらえ・調理・片づけ等。畑で収穫した野菜も食卓に上がる。	献立に入居者の希望や旬のものを採り入れたり、個々の入居者の得意分野を活かしながら、調理や準備を職員と一緒に行う等の支援をされています。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は、主食の摂取量を知るために測定し記録に残している。栄養のバランスは献立立案時に考慮している。水分量は最低摂取量が把握できるように努めている。体重測定1回/月・健康診断1回/年を行い健康管理の参考にしてている		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、誘導を行い、義歯洗浄・歯磨き・口すすぎなど一人ひとりに合った方法で本人が出来るところまでして後で職員が補っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	リハビリパンツ・オムツ・パット等を使用している人もトイレ誘導を行い、トイレでの排泄が出来るように努めている。トイレを汚染しても自力で排泄行為が出来るように仕向け、使用後に掃除を行っている。	個々の入居者の排泄パターンや力を把握し、自尊心を傷つけないよう、自立を促す支援をされています。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝のラジオ体操・1時間以内の散歩・椅子に座っての体操等身体を動かす機会を多く持っている。水分補給・朝の牛乳に加えてフルーツジュースを用いて薬を使いすぎずに排便が出来る工夫をしている。献立でも野菜を多く摂取できるようにしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は、ユニット毎に曜日を設定している。時間帯は勤務時間に合わせて設定しているが、それ以外の時間帯や曜日であっても希望や必要があれば応じている。湯の温度や所要時間はその人に合わせている。	基本的な入浴日・時間帯は設定されていますが、本人の希望を優先し、状態に応じた入浴支援に努められています。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々にあった関わりをしているが、夜間の睡眠に影響することが予測される場合は調整を行う。朝食後の休息は、掃除や10時のお茶で、昼食後は、3時のお茶でと言うように何か好む理由で誘導することでスムーズに行えている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1回づつ手渡しで与薬し個々に合った服薬の援助を行っている。薬の目的・副作用・用法・用量についてはそれぞれに明記しているのでそれを用いて理解し、症状の変化の観察を行っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々にあった関わりが出来るように努めている。楽しみごと嗜好品もその瞬間だけの喜びにしかならない入居者がほとんどで、すぐ忘れてしまうが、心地よさは残っているようだ。職員は、その瞬間の表情を見て満足し次の支援に活かしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩は雨が降らない限り毎日1時間程度かけて行っている。希望があれば2回行くこともある。ドライブや外食などにも出かける。家族と共に一泊二日の温泉旅行を実施した事もある。家族だけでの外出もされている。	毎日の散歩や、個々の入居者の希望・意向に応じて馴染みの場所に出かける等の取り組みをされています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時からお金を持っている人が数人いるが、管理はしていない。使われる時は付き添いトラブルのないように見守っている。アクセ化の一環としてショッピングに出かけるが、ほとんどの人は見ているだけで買おうとしないのが現状。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	習字教室で暑中見舞いや年賀状を書く機会があり、宛名は施設で書いて家族(普段余り面会に来ない家族にも)に送る。本人がポストに投函し、返事をくれる家族もいる。電話は要求があれば相手呼び出す支援を行う。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	立地条件上、窓ガラスが二重構造になっていて音・温度に対し外からの影響が少ない。冬の暖はエアコンより床暖を用いている。時には、床に座ったり。西日が唯一の太陽光線でレースと遮光カーテンで調節している。散歩時に見つけた野花をテーブルに飾ったり、貼り絵などで季節を感じている。	共用空間には、季節を感じる装飾や入居者の作品を掲示する等、清潔で和やかな雰囲気作りに配慮し、居心地よく過ごせるよう工夫されています。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自然と気のあった人たちがテーブルやソファに集まって歌を唄ったり、テレビを見たり、日によって変化しながら過ごしている。リビングだけでなく廊下の奥のベンチで話に花が咲いているときもある。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の物品はカーテン以外はすべて家族で準備してもらっている。好みの椅子やテーブルを置いていて、その人らしさが伺え、他者の部屋との区別がついている。	本人・家族の準備した家具を配置する等、それぞれの入居者が居心地よく過ごせる居室となっています。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりらしくない手すりが廊下に設置されていて、手すりやソファを伝いながら移動できる。杖を必要とする人も手すり使用と見守りで歩行が自立している。トイレの表示も手書きの物が有効で活用されている		